

北海道情報大学学内報



(冬の摩周湖)

● 目 次 ●

新しい世紀を迎えて 学長 大野公男……2	図書館利用に関するアンケート……6~7 調査結果
着任のごあいさつ 教養課程教授 石井詩都夫……3	広報活動のページ ……………8
第二回中国語研修を終えて 教養課程助教授 玉置重俊…4~5	図書館案内図 ……………9
	主要行事・編集後記 ……………10

発行・北海道情報大学  
〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



## 新しい世紀を迎えて —古い世紀の前半を振り返る—

学 長 おお 大 の 野 きみ 公 お 男

21世紀が始まった。新しい世紀の始まりに当たって、去っていった20世紀の前半を、夏目漱石を最初のキーとして、思い起こしてみることにした。

1901年(明治34年)、夏目漱石はロンドンにいた。前年の1900年9月上旬に日本を発って、10月末に英都ロンドンに到着、下宿を探し回って、11月12日にやっと決めた下宿も“契約違反の所為”で、月末には別の下宿に移り、そこで新しい世紀を迎える。1月末にヴィクトリア女王が亡くなり、その葬列を下宿の主人の肩車に乗って見物した。日本では、日清戦争(明治27年8月—28年4月)と日露戦争(明治37年2月—明治38年9月)のほぼ中間に当たる。日露戦争が終わった1905年には、漱石の処女作“吾輩は猫である”が雑誌“ホトトギス”に連載され、漱石の文名が俄に高まった。

こういう時代を反映して、漱石の著作の中に20世紀という文字列の登場する回数は、ほぼ70回に達する。猫の中でも、迷亭の年賀状には、「二十世紀の今日交通の頻繁、宴会の増加は申すまでもなく。軍国多事征露の第二年とも相成り候折柄」とか、ご近所の鼻子のことを、やはり迷亭が「十九世紀で売れ残って、二十世紀で店晒しに逢うと云う相だ」と妙なことばかり言う場面が出てくる。翌1906年に書かれた、“野分”の中では、主人公の一人、高柳君に、「——実に不親切で、形式的で——丸で版行に押した様な事をべらべらと一通り述べたが以上、何を聞いても知りません、知りませんで持ち切っ居る。あいつは20世紀の日本人を代表している模範的人物だ。」と語らせている。漱石の20世紀の評価は、あまり高くない

ようだ。

明治は1912年7月天皇の薨去で終わるが、1914年に第1次世界大戦が勃発し、日本も参戦し、1918年11月ドイツが降伏するまで続く。大戦中の1916年12月、漱石は持病の胃潰瘍で、伊豆において帰らぬ人となる。その後の30年間に日本は大きく変わってしまう。

日清、日露の両戦役に勝ち、第1次大戦に勝ち組に属した日本は、1926年大正から昭和と年号が変わっていく間にも、特に満州における特殊な権限を主張して、国内的にも左・右の思想の対立が激しくなる。1932年には、3月の満州国建国宣言の直後、犬養首相が首相官邸で軍人に射殺され(5・15事件)、1936年には青年将校数名が下士官兵1400名を率いて、首相官邸などを襲い、高橋蔵相、斎藤内大臣などを殺害した(2・26事件)。軍部内の統制の確立が出来ない状態が続く。当時の政府の転覆を謀ることが現役軍人を含む一味によって実行された。1937年には日中戦争が始まり、泥沼化する。そして、1941年12月8日には、対米・英の戦争に突入し、勝算の立たない、無謀な戦争に突入してしまう。そして、遂に原子爆弾という予想もしなかった新兵器の広島と長崎における使用が1945年8月15日の無条件降伏の決め手となった。その後の数年はいわゆる“終戦”後の社会的混乱が続くさなかで、日本の20世紀の前半が終わりを告げる。1950年の日本は事実上マッカーサー元帥の統治下であり、未だ独立国とは言えない状態であった(サンフランシスコで日米講和条約が調印されたのは翌1951年のことである)。



## 着任のごあいさつ

教養課程 教授 石井 詩都夫

ご縁がありまして本学にお世話になり、早6か月になろうとしております。私なりに楽しく、充実した日々を過ごさせていただいております。

木々が清々しい木陰をつくってくれる夏、そして、除雪のゆきとどいた冬の大学構内等、しばらく北海道を離れておりましたが、やはり北国のゆったりとした本学のキャンパスに心落ちつくものを感じます。

ITは、私たちの生活にどっしりと定着しつつあり、情報収集ひとつをとっても国内は言うに及ばず、グローバル化の観点で対処しなければならない時代です。ITに関する教育は、社会が望んでいる最先端のものであり、それに十分対応できるのが本学であると自負しております。こうした中でご縁をいただいた幸せは、大野学長や今田局長の大きなお力の賜物と感謝の念でいっぱいです。

また、新参者の私をスポーツや酒の席におさそい下さり、すでに先生方や事務の方々と親しくお付き合いさせていただいており

ます。

どこの学生にも言えることですが、日本では学問をするにあたり、“何を学ぶか”ということより“何処で学ぶか”ということが依然として優先される風潮を強く感じます。実績を積み上げつつ我々指導陣の意識も変えていく必要があると思います。現在のように社会が複雑になってくると、偏差値で輪切りにされた“多様な学生”が集まってきます。最高学府としての大学ではなく、「一時的には学問は志すが、それを継続できない学生の集まり」という発想の転換をし、学生相談の充実を図る必要があると思います。

そんな中に、長年の懸案であった“教職課程”が新設されました。現職教育とも関わりながら、教員免許状をとって卒業できる学生が一人でも多くなるように、微力ですが、本学の教職員の方々と共に、頑張りたいと思っております。よろしくご指導の程をお願い申し上げます。

## 第二回中国語研修を終えて — 南京大学と研修旅行での体験記 —

教養課程・助教授 玉置 重俊

2000年における本学の第二回中国語研修は、さすがに第一回目の時とは異なり、余裕をもって研修計画を作成し、前年度の経験も踏まえて、旅行代理店や南京大学と打合せを進めたので、準備段階ではそれほど苦労はなかった。しかし、早めに学内での中国短期留学の募集をしたわりには、参加希望者が思うように集まらず、やはり6月下旬頃までは、海外旅行の団体ツアーが正式に組めるかどうか、やきもきさせられた。最終的には、経営情報学部からは3名、通信教育部からは7名の学生がそれぞれ応募し、私も引率教員に命ぜられて、何とか南京大学での第二回中国語研修が実現した。研修先は、南京大学の海外教育学院で、参加学生は10名、研修期間は8月3日～27日(25日間)であった。この紙面では、中国に入ってから感動的な語学研修と有意義な研修旅行での具体的な話を述べてみたい。

まず、我々は8月3日に関西空港から、中国国際航空で上海に到着した。当日は、南京大学がマイクロバスで、虹橋飛行場に出迎えに来て下さった。本学の三宅君と福岡教育センターの中田君も、現在折よく南京大学に長期留学中なので、彼らも私の補佐役として、上海まで手伝いに駆けつけてくれた。全員がマイクロバスに乗り込み、江蘇飯店というホテルに向かった。10名の参加学生は、全員が初めての中国訪問なので、夜8時半より、ホテルの私の部屋で、第一回目のミーティングを開き、今後の研修と旅行に関する詳細な注意事項を伝達した。その後は、各学生になぜこの研修に参加する気になったのかを話してもらい、各自の自己紹介もさせた。4日は、上海観光(外灘・豫園・上海博物館など)後、蘇州に到着した。5日は、蘇州観光(寒山寺・留園・虎丘など)後、南京大学に到着した。その日の夕方には、海外教育学院のスタッフが心暖まる歓迎会を開いて下さった。宴会での豪華な料理と美味しいビールは、とてもありがたいのだが、やはり学生たちは全く中国語が分からないので、このあたりから、私は即時通訳の仕事が極めて忙しくなり、なかなか大変であった。

6日は、午前中に、南京観光(中山陵・明の孝陵など)をした。午後は、海外教育学院が本学の学生のために、正式の入学式を開き、南京大学の概要と中国語担当の先生たちを紹介して下さい。7日、きょうから、中国語研修が始まる。今回の参加学生のなかには、中国語未習者が6名いるので、南京大学は彼らのために中国語入門の特別クラスを編成して下さい。そのクラスには、中国人の先生がお二人ついて、熱心な授業を進めて頂いた。ただ、先生たちは日本語をほとんど話さず、すべて最初から中国語で話すので、中国語の全く分からない学生たちには、決して楽な授業にはならないはずである。因に、中国語を既習している3名の学生は、他の大学の学生に混じって、別のクラスで勉強する予定だったが、残念ながら、2名の学生は、そのクラスのレベルについていけないらしく、入門クラスに戻って来てしまった。

また、研修期間中の12日には、全員がマイクロバスで揚州観光(瘦西湖・大明寺・鑑真紀念堂など)へ行くはずだったが、突然3名の学生が揃って病気になる、彼らは行けなくなった。仕方なく、長期留学中の三宅君を彼らの世話人として、宿舎に残した。やはり、研修中は思いがけない事態も、必ず起こってくるので、言葉のできるアシスタントの存在はとても大きい。幸いに、海外教育学院の李主任が、ご親切にも学生を病院に連れて行って下さった。18日、きょうで、学生の2週間の中国語研修は終了した。夕方の歓送会は、南京大学が



—天安門広場にて(北京)—

主催して下さり、凌副主任から、学生が一人ずつ修了証書と記念集合写真を頂き、とても嬉しそうであった。学生たちは、豪華なご馳走を食べながら、覚えてたの中国語で感謝の気持ちを現して、極めて感激していた。私も、あまり酔わないうちに、本学を代表して、中国語で簡単なお礼の言葉を述べておいた。

8月19日、きょうから、待望の研修旅行である。海外教育学院・短期留学班の責任者である張勤女史と女性教師も1名、添乗員として我々に同行して下さる。寝台車の空いている所に、大きなトランクを押し込んで、先ずは西安へ。初めての汽車の旅なので、学生たちはとても興奮気味だった。20日、早朝に西安到着。午前10時半より、西安観光に出る。慈恩寺の大雁塔、碑林博物館、城壁そして空海にゆかりの地である青龍寺を訪れた。日本の有名な僧侶たちが幾人も、ここで修行をしていたと考えるだけで、このお寺になぜか親近感を覚えてしまう。夕方は劇場で、陝西省舞踊団の素晴らしい踊りと音楽を堪能する。21日は、マイクロバスで少し遠出をして、西安の西の郊外に向かい、漢の武帝の陵墓である茂陵とその博物館を見学した。また、唐の第三代皇帝・高宗とその皇后・則天武后の合葬陵墓である乾陵にも行くことが出来た。特に、神の道と呼ばれる何百段もの石段を有する乾陵は、全体のスケールも実に雄大で、確かに驚かされた。西安という都市は、中国古代史に関心があれば、絶対に長期滞在したくなる魅力的な場所なのだが、学生たちの中国の歴史や文化に対する知識はどうしても乏しいので、貴重な文化遺産を見ても、今一つ感動できない側面もあるようだ。

22日は、朝から大雨だったが、午前中は半坡遺跡と有名な秦の始皇帝兵馬俑博物館などを見学した。実物の多量の兵馬俑を見て、みんなは啞然とするばかりであった。西安での男性のガイドさんは、日本語は話せなかったが、とてもまじめで、熱心に説明して下さった。ただ、それを通訳するのは、中国の歴史や文化のエキスパートでなければならない。遺憾ながら、私の実力でも、いささか力不足であった。ただ今回は幸いに、参加学生のなか

に在日中国人の陳君がいたので、私が疲れたときには、彼に通訳を担当してもらった。午後からは、西安駅に向かい、北京行きの寝台車に乗り込んだ。23日早朝、北京西駅に到着。午後から、西太后の別荘・頤和園を見物した。24日には、午前8時半から、マイクロバスで万里の長城へ向かう。一時間半程で先ずは、明の十三陵の定陵に着き、地下の宮殿や装飾品博物館などを見学した。その後に、遂に万里の長城への登り口に到着した。みんな元気に、登れる所まで登り始める。勾配も強く、登るのは決して楽ではない。ここを一番楽しみにしていた学生も、多いと思う。25日は、天安門広場と故宮見物に行った。26日は最終日なので、まる一日の自由行動を設けた。夜はホテルで、学生全員を私の部屋に集めて、今回の研修と旅行の感想を話してもらったが、みんな研修に参加できて、最高でしたと述べてくれた。27日の午前中に、近



—青龍寺の空海記念碑の前にて(西安)—

代的な北京空港に着いて、学生たちは免税店で、たくさんのお土産を購入していた。午後2時半頃、無事に関西空港へ到着し、税関を出たところで、みんなと握手をして別れた。とにかく、全員が精神的にも一段とたくましくなり、計り知れない収穫を携えて、元気に帰国できたことを、心

から運命の神様に感謝しなければなるまい。

上述のように、駆け足で研修と旅行の日程を紹介してみた。我々の中国での活動状況が、少しはご理解頂けたことと思う。今回も、参加学生に対して、中国語研修の内容に関するアンケート調査をしてみたが、参加学生からは、南京大学での中国語研修の期間をもっと長くして欲しいという要望も出てきている。2001年度は、本学の中国語履修学生が一人でも多く、このような本学独自で企画した、有意義な語学研修に積極的に参加して、各自の語学力と異文化理解力を一段と向上させるとともに、各自の教養や視野も大いに広げて頂きたいものである。最後に、この研修にご協力下さった南京大学と本学の関係者の方々に、心からお礼を申し上げたいと存じます。本当に、ありがとうございました。

# 図書館利用に関する

## ◆図書館利用に関するアンケート集計結果

対象者：579人（2年生94人、3年生225人、4年生237人、大学院生23人）回答数：344人

### (1) 利用頻度

a. ほぼ毎日	17人	4.9%
b. 毎週1度は行く	97人	28.2%
c. 月に1回	146人	42.4%
d. 年に数回	75人	21.8%
e. 行かない	8人	2.3%

### (2) 利用目的（複数回答あり）

a. 学習の場の確保	96人	27.9%
b. 新聞購買	57人	16.6%
c. 趣味・教養に関する読書	165人	48.0%
d. 講義の予習・復習	38人	11.0%
e. 試験対策	103人	29.9%
f. ゼミの学習研究	152人	44.2%
g. 視聴覚資料の閲覧	84人	24.4%

### (3) 利用法の理解（複数回答あり）

a. 利用のマナー	209人	60.8%
b. コンピュータによる検索	188人	54.7%
c. 貸出のルールと手続	186人	54.1%
d. 外部図書館の利用	15人	4.4%
e. 文献複写	41人	11.9%
f. コピー室	262人	76.2%
g. 学生希望図書の手続き	42人	12.2%

### (4) 利用時間（複数回答あり）

a. 授業の空き時間	283人	82.3%
b. 昼休み	105人	30.5%
c. 講義終了後	98人	28.5%
d. 授業の無い日	69人	20.1%

### (5) 書架の配置

a. わかり易い	86人	25.0%
b. よくわからない	92人	26.7%
c. どちらとも言えない	162人	47.1%

### (6) 目的の図書が無いこと

a. 時々ある	220人	64.0%
b. あまりない	58人	16.9%
c. どちらとも言えない	63人	18.3%

### (7) 視聴覚施設の利用

a. ビデオ	36人	10.5%
b. LD	179人	52.0%
c. ない	155人	45.1%

### (8) 図書館員の対応

a. 対応が親切	123人	35.8%
b. 相談しやすい	25人	7.3%
c. 指示・情報が的確	44人	12.8%
d. 対応が迅速	57人	16.6%
e. 知識・視野が広い	11人	3.2%
f. 不満である	49人	14.2%

### (9) 開館時間について

a. 特になし	171人	49.7%
b. 平日の時間延長	146人	40.4%
c. 土曜開館	70人	20.3%

### \*希望時間内訳

平日		土曜日	
午後6時	68人	午後12時	3人
午後6時30分	6人	午後1時	3人
午後7時	39人	午後3時	17人
午後8時	26人	午後4時	4人
午後9時	13人	午後5時	30人
午後10時	3人	午後6時	6人
		午後7時	5人
		午後8時	2人
		午後9時	2人

# 実態調査結果まとまる

## ◆調査結果について

本学図書館は開学13年目を迎え、一般的な整備水準は概ね先発私立大学のレベルに到達しています。しかし、北海道地区私立大学図書館協議会のデータによれば、本学学生の利用状況は、他大学と比較して良好とは言えない実情にあります。そこで、図書委員会では、利用の実態を調べるとともに、利用上に何か不都合があればこれを改善することを目的にアンケート調査を実施しました。教養ゼミを含む全ゼミ学生570名と大学院生を対象にアンケート用紙を配布し、最終的に344名から有効回答（回答率59.4%）を得ました。

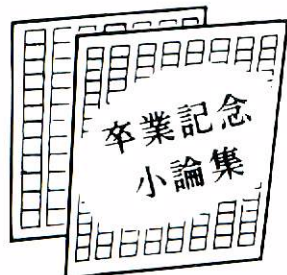
学科別、学年別、利用頻度別など各種の集計を行って、分析を試みました。紙幅の関係から、一般的に集計したものを紹介するにどどめますが、調査結果全体の概略を以下の6点にまとめました。

- 1) 図書館の利用頻度を、学科別にみると、一般的に利用度が低い中で、概して情報学科の学生の方が、経営学科の学生よりも図書館をよく利用しています。学年別には、2年生の教養ゼミ履修学生が最も高く、これは選択科目である教養ゼミをあえて履修する勉学に対する意識が高い学生が多いか、あるいは教養ゼミを通じて意識が高まったとみることができます。それに比較して、4年生の利用度が最も低くなっています。これは調査の実施時期（6月末から7月上旬）との関係で、その頃の4年生にとって進路問題が最重要課題であることによるもので、例年の傾向からは、卒業研究のシーズンに入ると当然変わってきます。
- 2) 利用目的は、学年や学科によって少し違っているのですが、趣味教養に関する読書とゼミ・教養ゼミの学習研究が最も多く、図書館に行く目的が必ずしも大学の勉強一辺倒でもないことのように思われます。他に、試験対策や学習の場の確保もありますが、特徴的なのは視聴覚資料の閲覧がかなり多いことです。
- 3) 利用方法については、当初考えていたよりも学生はよく理解しているようすし、学年が上がるほどよく解ってくる傾向も見受けられます。しかし、外部図書館の利用、文献複写、学生希望図書の制度があることについては概して理解が不十分でした。利用度の高い学生はこれらについてもよく解っています。
- 4) 蔵書内容の充実度については、上級学年ほど目的の図書が無いことがあると答える割合が多くなっています。これは、より専門性の高い勉強をするようになることの現れであると思えますが、同時に、学生諸君にも、それに類する本を探す力をつける必要があるように思われます。しかし、利用度が高くなるほど目的の図書が無いことがあると答えていることから、大学としても、教育内容を重視した選書に努めるなど、蔵書内容の充実にもむけて一層の努力が必要であるように思われます。
- 5) 図書館職員の対応については、学生から概して好意的に受けとめられているようです。
- 6) 開館時間については、約半数の学生が現行で特に問題ないと答えていますが、半数近い学生が平日の時間延長、20%が土曜開館を希望しています。時間延長を希望する学生の多くが、5講時の講義が終わった時点で図書館が閉まっていることを不満とし、かつ、改善の要望を述べています。この要望に対して、大学側は、開館時間を平日6時30分まで延長するための具体的検討に入っています。

(図書委員会)

## ◆◆ 広報活動のページ ◆◆

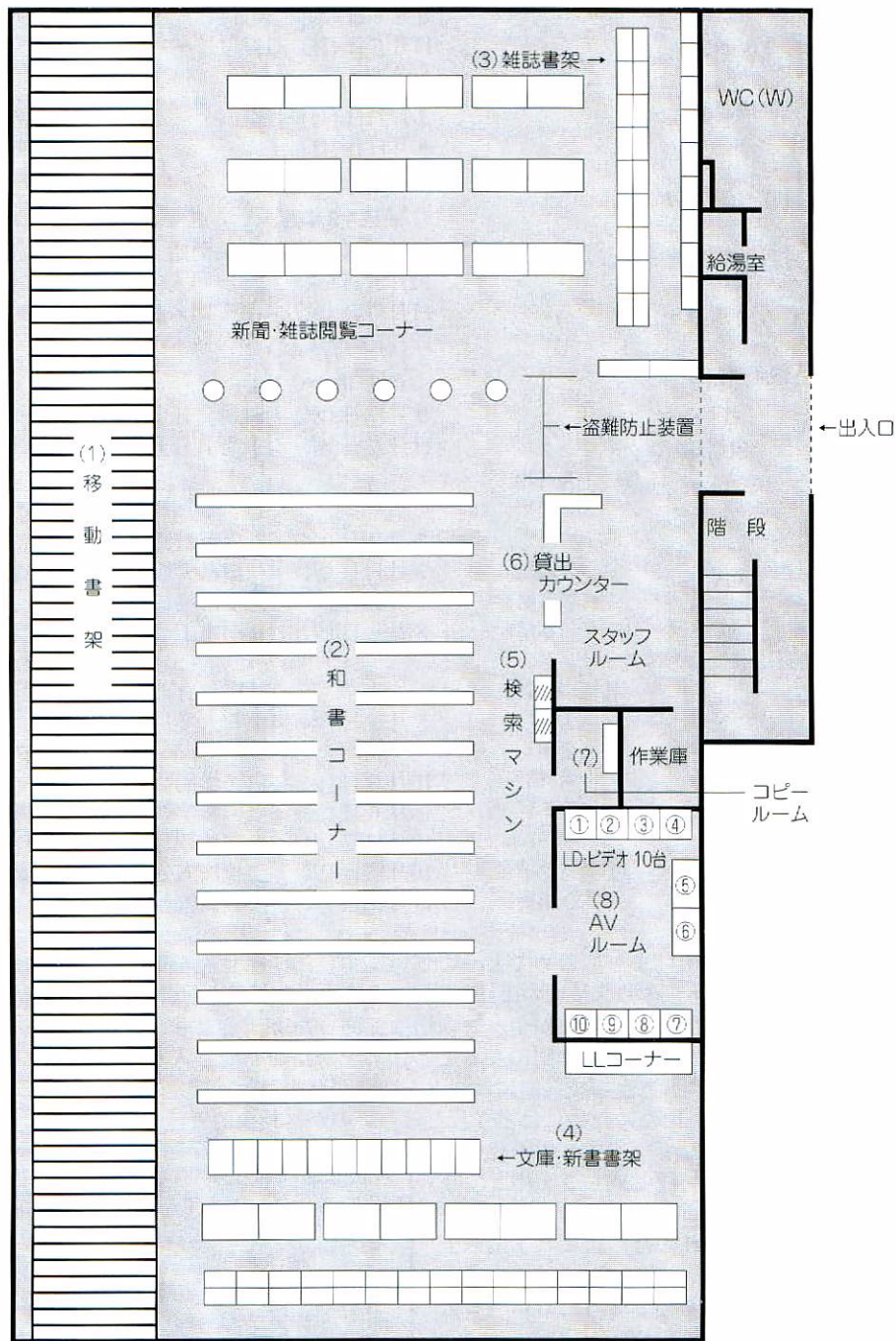
- ・オープンキャンパス (7/29、9/23)
- ・北海道情報大学・北海道電子計算機専門学校合同説明会 (10/11～13 弘前市、青森市、八戸市)
- ・通信教育部説明会 (10/22)
- ・教職課程説明会 (11/27～12/8 名古屋、北九州、福岡、広島、大阪、鹿児島、新潟)
- ・北海道情報大学&情報専門学校フェア (12/23)
- ・ホームページ画像作成講座講師派遣 (9/27～28)
- ・進学相談会 (8/22～28 道内5会場 8/30～9/14 東北11会場 9/11～25 道内9会場 10/30 東京)
  - \* 校内ガイダンス \*
  - (7/11～10/24 札幌第一高校 函館工業高校 とわの森三愛高校 天塩高校 札幌東陵高校 札幌平岡高校 札幌篠路高校 千歳高校)
  - \* 高校訪問 \*
  - (9月～10月 北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県)
  - (11月～12月 関東圏 石狩及び近地地区)
- ・TVCM(オープンキャンパス告知)
  - STV (7/1～9/22) 、HTB (7/1～9/22)
- ・TVCM(情報メディア学部、教職課程新設告知)
  - HBC (10/28～1/1)、HTB (10/28～1/1)
- ・TVCM(情報フェア告知)
  - STV (12/1～12/22)、HTB (12/1～12/22)
- ・TVパブリシティ
  - HTB (11/1 『夕方DONDON』 大学祭PR・学生出演)
  - (12/22 『HIT COM』 情報メディア学部新設告知)
  - (1/6 『やあ!こんにちは』 情報メディア学部新設告知・大野学長出演)
  - HTB (11/11 『山崎図鑑』 大学祭PR)
  - (12/9 『山崎図鑑』 情報メディア学部新設告知)
  - STV (11/10 『どさんこワイド』 大学祭PR・学生出演)
  - (12/23 『くらしの情報便』 情報メディア学部新設告知)



1. 提出期限  
平成13年2月1日(木)17時30分…提出締め切り 提出先→図書館  
平成13年2月19日(月)……………完成・配布  
学生はゼミ担当教員から、お受け取り下さい。
2. 書式
  - ①A4判1,600字程度、1～2頁
  - ②連名の場合は、学籍番号順(番号が若い順)に名前を並べる。
  - ③文字の大きさは下記のとおり統一する。
    - \* 題名 → フォントサイズ「20」
    - \* 副題、氏名 → フォントサイズ「16」
    - \* 学籍番号、学科、ゼミ名、ほか → フォントサイズ「11」
3. ページは打たない。
4. 掲載順は特に指定がなければ、ゼミ毎で、学籍番号順に掲載します。(論文の内容などによって、掲載順の指定があれば、提出の際に申し出てください。)



# 図書館案内図



## ◆◇ 7月～12月主要行事 ◆◇

## ☆ 大 学 ☆

- 7月14日(金) 教授会  
 8月3日(木) 南京大学中国語短期留学  
 ～27日(日)  
 28日(月) 教職員健康診断  
 9月8日(金) 教授会  
 9日(土) 大学院選抜試験  
 10月13日(金) 教授会  
 11月10日(金) 教授会  
 11日(土) 第12回蒼天際  
 ～12日(日)  
 26日(日) 経営情報学部推薦入学試験  
 12月8日(金) 教授会  
 28日(木) 仕事納め

## ☆ 通信教育部 ☆

## &lt;面接授業&gt;

- 7月7日(金)～9日(日) 前期地方スクーリング  
 (札幌・名古屋・福岡)  
 7月14日(金)～16日(日) ♪ (全国)  
 7月15日(土)～17日(月) ♪ (広島)  
 7月20日(木)～22日(土) ♪ (静岡)  
 7月21日(金)～23日(日) ♪ (名古屋)  
 8月7日(月)～26日(土) (札幌) 夏期スクーリング(本学)  
 9月29日(金)～10月1日(日) 後期地方スクーリング  
 (札幌・名古屋)  
 9月30日(土)～10月2日(月) ♪ (広島)  
 10月6日(金)～8日(日) ♪ (全国)  
 10月20日(金)～22日(日) ♪ (名古屋・福岡)  
 10月26日(金)～28日(土) ♪ (千葉)  
 10月27日(金)～29日(日) ♪ (全国)  
 11月10日(金)～12日(日) ♪ (札幌・新潟・名古屋  
 ・大阪・福岡)

- 11月17日(金)～19日(日) 後期地方スクーリング  
 (全国)  
 11月24日(金)～26日(日) ♪ (札幌・北九州)  
 11月25日(土)～27日(月) ♪ (札幌)  
 <印刷授業>  
 9月6日(水)～10日(日) 前期科目試験  
 11月6日(月)～13日(月) 後期レポート提出期間  
 <メディア授業>  
 7月24日(月)～28日(金) 前期科目試験  
 9月11日(月) 後期授業放映開始  
 12月18日(月)～22日(金) 後期科目試験  
 <平成13年度 入学選考>  
 10月2日(月) 募集開始  
 10月27日(金) 第一回入学選考  
 11月17日(金) 第二回入学選考  
 12月15日(金) 第三回入学選考  
 <その他>  
 9月13日(水) 就職責任者会議  
 11月22日(水) 教育責任者会議

## ◆◇ 主な来校者 ◆◇

- 7月7日(金) 青森県松風塾高校教員  
 7月11日(火) 秋田県大館工業高校教員  
 7月27日(木) 上士幌高校教員  
 8月1日(火) 新潟電子計算機専門学校  
 研修旅行御一行  
 秋田教育センター御一行  
 8月3日(木) 情報大学見学会御一行  
 (各教育センター企画)  
 10月3日(火) 白樺学園高校教員  
 10月6日(金) 全国私学教育研究集会御一行  
 10月11日(火) 森高校教員  
 10月31日(火) 学校法人分科会実地調査  
 11月28日(火) 大樹高校教員

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。二十一世紀を迎えた今年は情報大にとっても開学以来最大の節目の年になります。本格的な総合大学を目指すうえで、これまでの十二年間がホップの期間であったとするなら、情報メディア学部が新設されて二学部体制になることはステップの期間に入ることを意味します。

人間の場合と同様、大学組織も急激な成長期には様々な問題が発生し、不安定な状態になることが予想されます。立派な「大人」になるためにはどうしたらいいのか、社会的責任を自覚することも必要になってくるでしょう。それでなくても少子化の波の中で大学をめぐる状況は一段と厳しさを増してきます。新世紀にはどのような人材が求められるのかを見究め、より良い大学作りのためにこれまで以上に教職員、学生ともども力を合わせていきましょう。私たち編集委員も学内報を充実させるために一層努力していきたいと思っております。(U)

## 北海道情報大学学内報

「ななかまど」第18号

発行日 平成13年1月1日  
 発行 北海道情報大学  
 編集 学内報編集委員会